

思い出すままに

新潟大学名誉教授／松本歯科大学名誉教授 小澤英浩

新潟大学歯学部創立50周年、おめでとうございます。

この度、新潟大学歯学部が50周年を迎えることに深い感慨を覚えます。

1965年、大いなる期待を担いながら、日本海唯一の国立大学歯学部として産声を上げた本学は、総合大学の歯学部としての特色を生かしながら高度専門職業人の育成、最先端の歯科医学・医療の研究開発などを通じ環日本海における歯科医学の拠点として発展を遂げ、多くの優れた歯科医師、歯学研究者・教育者を排出し今日を迎えたことは何よりも喜ばしく、創設以来30余年お世話になった教員の一人としてご同慶の至りです。

そして今日、この度の大改造による目を見張るような素晴らしい校舎を拝見し、当時を思い浮かべると隔世の感を抱かざるを得ません。前田健康歯学部長をはじめとする、歯学部教職員全ての叡智と努力のたまものであるこの度の大改造は今後の学部発展の新たな礎として、大いなる期待を抱かせます。

私は昭和42年、出来たてのほやほやの歯学部第一口腔解剖の助教授として赴任し、プレハブ時代のスタートを切りました。昭和36年、37年と新潟大学医学部第三解剖で過ごした私にとっては、多くの友人のいる新潟大学は懐かしく、新設歯学部へは故郷へ戻るような期待を抱いての赴任でした。新設当時は校舎もなく、プレハブや旧医学部校舎を借りての仮住まいでしたが、教職員・学生全てが希望を抱き、教育・研究・運営にあたっていました。

しかし、新設の弱小学部である歯学部は、創設当初より大学紛争・大学再建・全学統合の嵐に巻き込まれ、校舎と病院の建設を始め、教官組織・カリキュラムの見直し、大学院歯学研究科・講座

増などさまざまな産みの苦しみも多く、諸先輩のご苦勞は並大抵のものでなかったことを改めて思いだしております。この間の事情については、他にお譲りし、ここでは学部をお預かりした平成6年から平成10年に至る6年間の歩みを少し振り返ってみることにいたします。

平成5・6年度

この年度は、教養部改組に伴う6年一貫教育、教養教育をはじめとする教育・研究体制の見直し、旭町地区五部局の再開発整備計画、大学設置基準の大綱化をはじめとする大学改革の激動期で、大学の将来は自己点検・評価のもとに各大学の自由裁量に大きく委ねられることになった時期でした。一方、国立大学の大学院部局化、大学院大学化、行政改革の一環として独立特殊法人化などが緊急課題として浮上し始めた時期でもありました。

大学院教育を我が国における高等教育・研究機関の中核として整備するため、各大学は大学院重点化へ向けて鎬を削り始めており、本学においても大学院教育の充実、大学院重点化を目指して大学院の機構改革を行うことを最優先課題として検討が進められました。

大学院の機構改革は当時進められていた旭町地区再開発整備計画とも深い関わり合いを持ち、医学部・脳研究所を横断する新潟大学メディカルセンターとして特色ある複合領域系研究科の設置も構想されていました。旭町地区再開発整備計画は平成6年2月8日付けの「新潟大学旭町キャンパスの再開発整備計画基本構想」として纏められ、国際協力センターを設けて環日本海圏諸国との医学・歯学・医療・歯科医療の拠点とする構想などが打ち出された時期でもありました。平成6年9月には旭町地区将来計画委員会において旭町地区

のゾーニングも決定し、それに伴い歯学部附属病院の増築の概算要求も認められ、平成9年3月には竣工いたしました。

平成7・8年度

生涯教育の重要性が叫ばれ、特に生命科学領域ではリカレント教育の必要性とその体制の組織化が強く望まれており、歯学領域においてもその対応が急務であるとの認識から、大学院歯学研究科は大学院重点化の一環として、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を活用して昼夜開講制による社会人特別選抜を導入し、平成8年4月に全国の歯学部・歯科大学に先駆けて開講しました。また、高齢化社会へ対応する臨床体制の確立を目指して、その基幹講座として加齢歯科学講座の新設を概算要求し、平成9年、国立大学歯学部で初めてその新設が認められました。

平成9年・10年度

平成9年度は歯科医師需給問題で幕が開きました。当時、文部省（現文科省）は、我が国における人口動態と歯科疾病構造の変化に対して歯科医

師は過剰であり、総医療費抑制のためにも医師・歯科医師は削減せざるを得ないとし、学部統廃合、大学の独立行政法人化、民営化などを視野に入れた入学定員削減、入試制度改革、カリキュラム改革、臨床教授制度の導入など歯学教育の多様化、将来構想としてのデンタルスクール化、大学院の改組・重点化・大学院大学化などを改革の視点として挙げておりました。これらを受けて、本学においても学部入学定員の削減、臨床研修の必修化などが進められました。

以上、平成6年から10年に至る本学の歩みを振り返ってみました。その後の本学の発展は4年制学科の新設、教育システムの改革など目を見張るものがあます。

最後に、50周年を通過点として日本海唯一の国立大学歯学部である本学が、創設以来の特色を生かし、地域医療の担い手とともに、教育・研究・臨床面でさらなる発展を遂げ、我が国はもとより世界に羽ばたく歯学部として一層の発展を遂げることを心より期待して祝辞に代えさせていただきます。

